

「2024（令和6）年度 全国公立高等学校・中学校海外教育旅行実施状況調査」まとめ

昨年度から本格的な再開が始った海外教育旅行（海外修学旅行・海外研修旅行）の、2024（令和6）年度を以下にまとめた。

【海外修学旅行】

- 公立高等学校259校39,769人、私立高等学校375校59,597人が実施。前年度から大幅に増加した。
- ※前年度比【公立】校数比211%、人数比256%【私立】校数比159%、人数比176%  
海外修学旅行実施率は、校数比で公立7.5%、私立28.0%まで上昇。  
（実施率の対象は、文部科学省令和6年度学校基本調査高等学校による）
- コロナ禍前（令和元年度）同様、訪問国上位は公立が台湾、シンガポール、マレーシア、私立はオーストラリア、シンガポール、台湾。公私立共に、昨年度来「韓国」が急増している。
- 公立中学校が、コロナ前より大幅に増えたのは、東京都港区公立中学校10校722人のシンガポール学旅行が実施されたことによる。

【海外研修（修学旅行外）】

- 公立高等学校634校16,508人、私立高等学校558校25,352人が、世界59ヵ国・地域で様々な研修旅行を行った。  
令和元年度校数比で公立91.8%、私立89.1%、参加人数比公立110.4%、私立95.5%とほぼ回復。公立校の参加人数はコロナ前を超えた。
- 研修目的は「ホームステイ・語学研修」「国際交流・国際理解」が多くを占めるが、「学校間交流」も、ホームステイ・語学研修、国際交流・理解に含まれるケースが多く、現地学生との交流は、語学はもちろん、異文化を学び、グローバルな視野を身に付けるための、まさに「国際理解教育」にとって生きた学びとなるものである。

【訪日教育旅行】

- 訪日教育旅行の受入れ再開も進んでいる。38都道府県の高等学校で676校10,483人、24都道府県の中学校で201校2,684人の海外の中高生が受入れられ学校交流が行われた。  
本調査は、「学校交流」を実施した訪日教育旅行の調査のため、他の目的での訪日教育旅行を含めれば、更に多くの海外学生が日本を訪れていると考えられる。

《主な訪日国・地域》

高等学校：台湾（120校2,989人）、オセアニア（109校1,427人）、北米・ハワイ（102校1,019人）  
 <※参考>韓国からの訪日教育旅行：69校2,050人  
 中学校：北米・ハワイ（47校373人）、台湾（42校862人）、オセアニア（37校567人）

◆物価高騰による様々なものの値上げと歴史的な円安が与える旅行費用への影響

公立高等学校修学旅行訪問国別旅行費用比較表（平均額）

	韓国	台湾	シンガポール	マレーシア	タイ	ベトナム	オーストラリア	アメリカ本土	ハワイ	グアム
2018年度	98,251	113,589	154,418	147,456	154,513	140,805	217,365	261,710	234,315	130,128
2023年度	149,562	158,360	213,395	210,240	284,508	172,104	287,246	374,634	350,212	191,299
2024年度	147,401	150,309	248,342	231,203	264,477	203,812	336,662	436,617	353,543	221,926
平均日数	4.4	4.3	5.1	5.1	5.3	4.9	7.1	6.3	5.6	4.3